Case Report

トルトラズリルで治療した犬のコクシジウム症の4例

小久保 貴史[1)]、山田 賢次[2)]
1）アテナ動物病院 ららぽーと新三郷、2）やまだ動物病院

はじめに

犬のコクシジウム症は臨床の現場ではよく遭遇する疾病の1つです。下痢を主症状とし、免疫獲得による感染防御は不完全なため、再感染が容易に起きる環境では無症状のまま少量のオーシスト（**図1**）やスポロシストを排泄し続けることがあります。

しかし、現在の治療の主流であるサルファ剤ではコクシジウムのライフサイクルのごく一部でしか効果が認められません。

そこで、今回我々は、犬のコクシジウム症の4例で大動物のコクシジウムのライフサイクルに幅広く作用するトルトラズリルによる治療を行ったところ、良好な結果を得られましたので報告いたします。

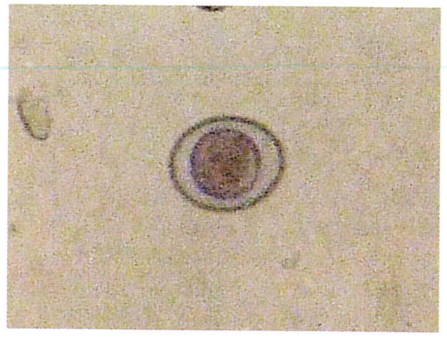

図1　顕微鏡下のコクシジウム（×200）

診断および治療

診断

診断については、糞便検査以外での小動物において確立された診断基準は存在しないため、マックマスター法による定量と大動物で使われる診断基準により効果を測定しました[1)]。

マックマスター法の定量（図2、3）

①糞便2gを58mLの飽和食塩水溶液に溶かし、100メッシュの金網に通す。

②糞液を十分に撹拌し、ピペットで計算盤の1室に入れ、さらに撹拌して他の1室に入れる。

③2～3分間静置後、計算盤の上のガラスの下面の溝にピントを合わせ、浮上している寄生虫卵を分別計数する。

④計算盤の2室から計算された虫卵数に100を乗じた値をOPGとする。

> 糞液総量60mLに対して鏡検した糞液は0.15mLの室（計0.3mL）＝鏡検量は1/200
> 糞便2gなので100を乗じた値がOPGとなる

治療

トルトラズリル（**図4**）20mg/kgを1回経口投与し、1週間後に再度糞便検査を行い、治療効果を測定しました（表1）。

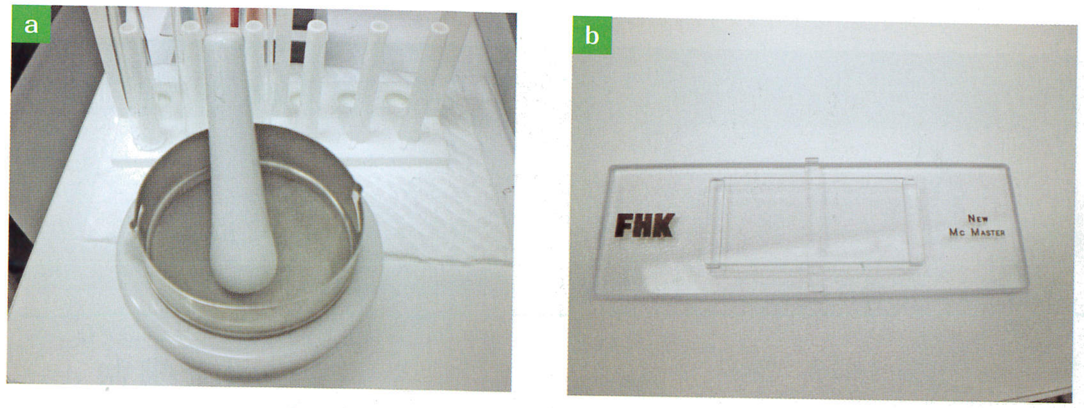

図2　必要な道具
a；100メッシュの金網。
b；マックスター計算板。

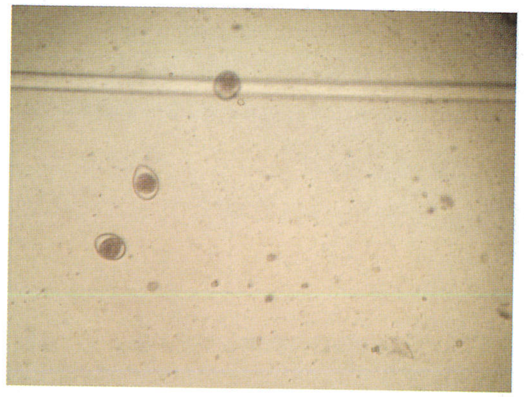

図3　計算板上のコクシジウム

図4　トルトラズリル製剤

表1　マックマスター法の定量の診断基準[1)]

OPG	①	OPGが10^5以上
	②	糞便スコアが2以上でその時点から1週間以内のOPGが10^4以上
	③	糞便スコアが1以上で5日間継続した時点から1週間以内のOPGが10^3以上

糞便スコア	スコア0	有形便、組織塊や血液の混入がない
	スコア1	軟便またはわずかに組織塊や血液が混入
	スコア2	下痢便または組織塊や血液の混入が明らか
	スコア3	水様便または組織塊や血液が多量に混入

症例および結果（表2）

表2は各症例のデータになります。症例1～4は、すべて既往症はとくになく、混合ワクチン接種済みです。また、生活環境は室内飼育で、食事は市販のドッグフードを与えています。すべての症例において、投与後3日目までに症状は回復し、便の状態も正常に戻りました。また、投与後に副作用などがみられることもありませんでした。